

富士や今春あけぼのの桜海老
切れかかる玄関灯や春の宵
月末の残る寒さに雪も降り
霞むかな花の蒼もそのやうに
これやこの彼岸中日春の雪
つばくらを待つや蒼も薄紅に
ここからは何もかも見ゆ落椿
花であることも忘れて猫柳
枝の先以外は呆け猫柳

富士や今^{いま}春あけぼのの桜海老
霞むかな花の苔もそのやうに
花であることも忘れて猫柳
垂れ初めし白妙の舌紫木蓮
ここからは何もかも見ゆ落椿
下萌のところどころの水たまり
切れかかる玄関灯や春の宵
つばくらを待つや苔も薄紅に
月末の残る寒さに雪も降り

春の暁のうす紅〜

③ 春の暁の海潮紅〜

春の暁 花の 春のうす紅
も色に染て
も色に染て
のうす紅も
うす紅と

富士やいま春あけぼのの桜海老

春宵や玄関の灯のちかちかと

広がりて川幅に日の永きかな

鶯いくつ上げて都の霞むかな

霞むかな花の蒼もそのやうに

山々の冷たき国を春の川

行く末や春の小川のさらさらと

恋猫を卒業の猫よく眠る

ここからは何もかも見ゆ落椿

花であることも忘れて猫柳

紫陽花の背丈親しき芽吹かな

細き枝の先の先まで芽吹きたる

垂れ初めし白妙の舌紫木蓮

菜の花に枝垂桜の触れんとす

山葵田の水や篩に掛ける如

拾えひ春まけほのさくら

川に花を分けて目のおまめ

山田のゆたかゆい

と折しなげてわ 半を押し開き 季子

富士やいま春曙に目覚めつつ

山々を押し開きつつ春の川

細き枝の先の先まで芽吹きたる

紫陽花の背丈親しき芽吹かな

菜の花に枝垂桜の触れんとす

花であることも忘れて猫柳

恋猫でありし昔や猫ねむる

R.B.4

の色にかま

押し開きつつ春の川

けり

富士やいま春あけぼのの色にかな
山々を押し開きた行くる春の川
細き枝の先の先まで芽吹きけり
紫陽花の背丈親しき芽吹かな
菜の花に枝垂桜の触れんとす
花であることも忘れて猫柳
恋猫でありし昔や猫ねむる

富士や今

ハードエツジの
開発素句報

2018
3.31
no. 11



明朝14p
互換
顔料インク



富士やいま春あけぼのの色にかな
山々を押し開き行く春の川
細き枝の先の先まで芽吹きけり
紫陽花の背丈親しき芽吹かな
菜の花に枝垂桜の触れんとす
花であることも忘れて猫柳
恋猫でありし昔や猫眠る

@hard_edge

編9/稿+Excel2016/11

brother MFC-J737DN